



全校研究だより

第1号
令和2年7月22日(水)
青森県立青森第二養護学校 研修部

3年計画の全校研究がスタートしました。今年度も全校研究だよりを通して、研究に関する情報提供や各研究グループの研究経過を紹介していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

令和2・3・4年度 研究主題

知的障害特別支援学校における内面の育ちを促す道徳科の授業

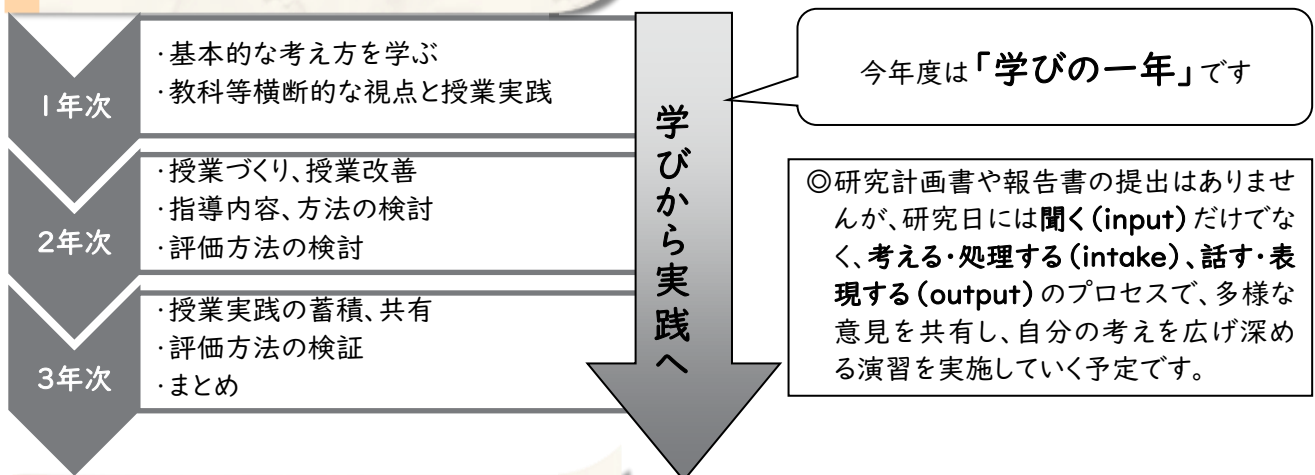
内面の育ちとは？

- 内面の育ちは、周囲の人たちや社会とのかかわりの中で実現される。
 - 内面の育ちは、自己と対話し、自分の行動や考え・気持ちを見直し、自分の思考を再構築し、深めることで実現される。
- 「そっか」「わかった」「その考えいいな」「次こうしよう」といった心の声がある。

(※H31 全校研究スライドより抜粋)

◎本研究では、「特別の教科 道徳」の指導を通して、「内面の育ち」を促すための指導の在り方を明らかにしていきます。

3年間の研究の流れ

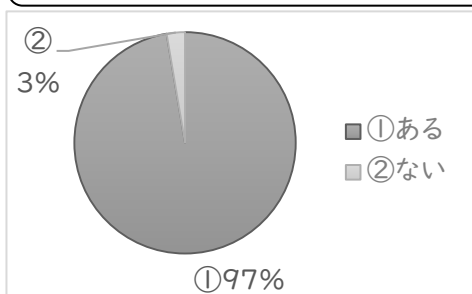


全校研究アンケート結果

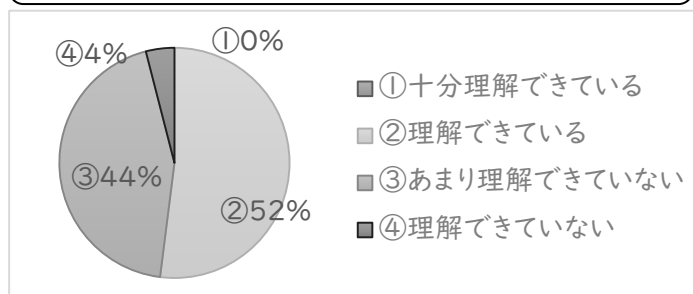
(※対象者97名、回答者75名 回答率78%)

先生方の「特別な教科 道徳」に関する具体的な課題意識等を探るため、アンケートを実施しました。問1の「道徳科の必要性はあるか」については、回答者全体の97%があると回答しました。ないと回答した先生も、「授業は必要ないが、学校教育全体で道徳性を養うことは必要」としており、その必要性については、全ての先生方が感じているという結果でした。

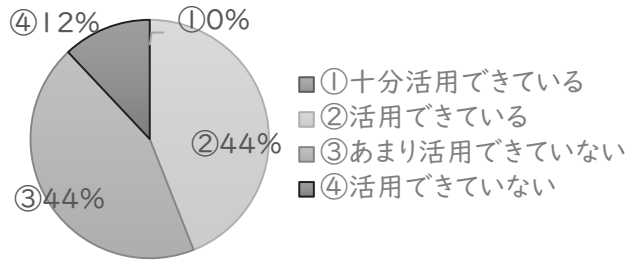
問1 知的障害のある児童生徒の道徳科の必要性について



問2 道徳科の目標や、本校の全体計画の理解について

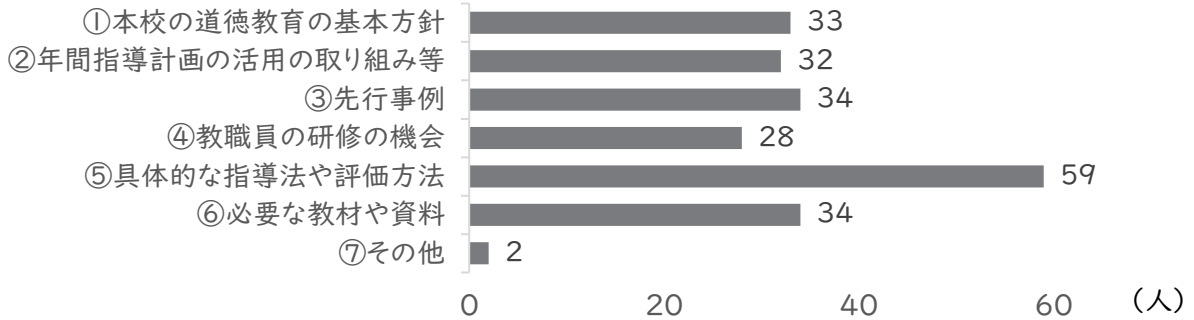


問3 道徳科を行う上での全体計画・年間指導計画の活用状況について



問2の「道徳科の目標等の理解」については、5割弱の先生方が理解への不安がありました。また、問3の「全体計画等の活用状況」については、5割以上の先生方が「活用しきれていない」と感じていることが分かりました。問4の「道徳科を充実させるために必要と感じていること」については、「具体的な指導法や評価方法」が最も多く、6割の先生方が必要と感じていることが分かりました。

問4 道徳科の充実を図るために必要だと感じていること。(複数選択可)



◎先生方は道徳の必要性は感じているものの、知的障害のある児童生徒に対する具体的な指導法や取組、評価の在り方について課題意識を持っており、学びたいと考えていることがうかがえる結果でした。

第1回校内研修会が行われました



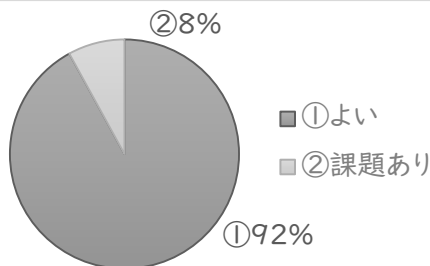
6月12日、秋田公立美術大学副学長の毛内嘉威(もうないよしただけ)氏を招聘し、研修会を行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、急遽Web会議方式を活用した講演でしたが、従来の対面方式に迫る雰囲気を感じられる研修会であったと思います。

事後アンケートでは、研修内容の他に、「Web会議方式でも十分価値のある方法だった」と新しい研修方式に対する肯定的なご意見を多数いただきました。

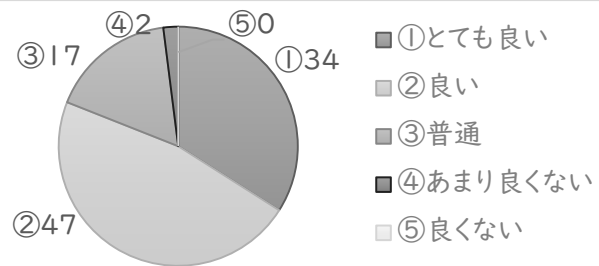
校内研修アンケート結果

(※対象者105名、回答者84名 回答率80%)

問1 講師及び講演内容について



問2 今回の研修会について



◎問1では「①よい」が約9割、問2では「①とても良い」、「②良い」で約8割を超える一方で、「もっと概要について知りたかった。」「もっと指導方法や評価について知りたかった。」という意見が多く、講演内容に見合った時間設定ではなかったことが示唆されました。今後は事前に職員の休憩時間の調整を行い、研修時間を確保していきたいと思えます。また、日時について「年間指導計画提出日を避けてほしい。」というご意見をいただきましたが、臨時休校により提出日が1週間ずれたための重なりです。ご了承ください。

研究係より

第1回校内研修の中で、毛内先生から「内面の育ちは、道徳そのものだ。」というお話がありました。今年度から研究テーマは新しくなりますが、昨年度までの研究の成果と課題の上に新たな研究があります。全職員で「特別の教科 道徳」について学び、児童生徒の内面の育ちを促す授業を目指していきましょう。